

発表概要

テーマ：重症心不全患者の補助循環装置装着に関する倫理的課題の検討

話題提供者

所属：獨協医科大学病院 急性・重症患者看護専門看護師

氏名：吉田紀子

補助循環装置を装着した重症心不全患者を取り巻く治療の状況や倫理的課題について、急激な心不全となった事例や、慢性的な経過をたどる中で急性増悪となった事例、補助循環装置を装着したのちに回復・救命が困難であると判断された事例など、実践の場で経験する事例をもとに検討した。近年の治療の進歩は目覚ましく、補助循環装置を装着することによる救命率は向上しているが、中には救命が困難となることもある。そのような状況の中、治療の方向性を検討する上で倫理的な葛藤を経験することも多くある。重症心不全患者の補助循環装置装着を取り巻く状況における倫理的課題についてのディスカッションを通して、患者自身の意向が不明確である、救命の可能性が不確かな状況下で代理意思決定により治療選択をしなければならない、救命が困難である状況下でも終末期、末期状態であるか否かという判断において医療チームでの判断や目標の共有が困難となりやすいことなどがある。各事例に寄り添って個々に最善策を検討しているが、組織での指針や医療チームでの行動指針がない中で、実践を担う医療者が困難感を抱えながら、その時の状況の中での最善を模索している状況であり、今後、個別的、事例ごとに最善策を検討することを充実するのみならず、施設やチーム内での実践の拠り所となる行動指針も整備する必要があることが議論された。重症心不全患者では、病状経過のなかで可能な場合には ACP ; Advance care planning を検討していくこと、本人様の意向が確認できない場合には家族とともに本人様にとっての最善の治療の方向性を検討する話し合いのプロセスを積み上げていくことが重要である。意見交換の場では、近年の取り組みとして、診断時から少しずつ ACP の機会をもてるように心不全手帳などのツールを活用する、救急の状況ではできる限り家族から本人様の意向を引き出せるように取り組んでいるなど、現在で行っている取り組みの内容が共有された。